

愛媛大学大学院 学生員 ○山田耕介
愛媛大学工学部 フェロー 柏谷増男
愛媛県庁 立川弘樹

1. はじめに

山間地域では道路ネットワークの形状により交通にかかる時間が都市部に比べて少ないと考えられる。また、施設の数が少ないため、選択肢が多く魅力的な都市部への外出が考えられる。そこで、実際に都市部に比べてどのくらい交通消費時間が多いかを見る為にアンケートを行った。

2. アンケートについて

対象地域は山間地域として愛媛県上浮穴郡久万町、都市部として愛媛県松山市を取り上げた。久万町は上浮穴郡でも比較的人口の集中している地域で松山市より車で約1時間の場所に位置する標高400m、人口7000人余りのまちである。松山市は人口47万人の都市である。アンケートの調査方法は1日の行動を全て記入してもらうダイアリー形式の調査とした。久万町のアンケート票は右の図1のように作成した。ここで、活動日記に活動内容や活動場所、活動時間、移動時間、移動手段などを記入してもらい、地図上には活動場所の位置と活動場所の施設名を記入してもらい、なるべく記入漏れの無いようにした。対象者は1世帯あたり2人の自動車免許を持っている人とし、久万町から60世帯120人、松山市から30世帯60人の方に協力していただいた。調査期間は1999年5月20日(木)～5月26日(水)までの1週間とした。

図1 アンケート票

3. 結果の考察

まず全体について、1日の平均トリップ数は久万町では4.13、松山市は4.08となっており大きな差はない。1トリップの平均移動距離、時間は久万町で10.8km、111分、松山市で4.1km、90分となっており2.5倍になる。1日の平均移動距離では29kmと16kmとなり久万町では約2倍の距離を移動していることになる。平日だけを見ると平均移動距離と平均移動時間は久万町で29.0km、97分となり松山市では16.0km、92分となるが、休日では久万町で68.0km、146分となり松山市では17.0km、79分となっている。そのため、久万町では平日は町内での行動が多く、休日に久万町外に出かけていると考えられる。また、利用交通機関では久万町では自動車の利用率が8割を超えているのに対し松山市では6割を超えてぐらいとなっており、久万町では自動車への依存が高いといえる。

次に、さらに内容を細かく見るため、目的が通勤、買物、娯楽の3つを選んだ。

通勤については通勤の移動時間は図2のようになる。久万町では松山市に比べて20分以内が多くなっているが、これは久万町では職場が比較的に中心部に集まっていることによるものと考えられる。また、職場ま

での移動距離を見ると大きな特徴として久万町では 2km 以内が 4 割となっている。

買物について目的地までの移動距離を見ると久万町では 2km 未満で 5 割を超えており、また 10km 以上が 3 割となっているため、自宅近くかある程度遠いところへ出かけていることがわかる。一方、松山市では 10km 以内でほぼ 100% となっている。移動時間を見ると図 3 のようになり、松山市では 30 分以内にほぼ全ての人が目的地に着いているのに対して久万町では 30 分以上というのが 3 割もいる。これより、松山市では松山市周辺の近いところで買物を済ませているが、久万町では久万町内の店で済ませるか、そこに無いものやより良いものを求めて松山市周辺へ出かけていると考えられる。実際に平日では仕事の帰りに久万町内で買い物をする傾向にあり、休日に松山市周辺に出かける傾向がみられた。つぎに、1 週間の買物回数を見ると、久万町では 1, 2 回が最も多くなっており 4 割もいるが、松山市では 1, 2 回は 2 割で 7 回以上が 26% も存在していた。また、平均では 1 週間に久万町が 2.7 回、松山市が 4.1 回となっている。このように久万町では距離や時間の不利な点を回数を少なくすることにより補っているのではないかと考えられる。逆に、松山市では近くに魅力のある店の多いため買物自体の時間が多くとれるということになる。

娯楽について休日に着目してみると、図 4 のようになり目的地までの移動時間を見ると松山市では 60 分以内に全ての人が目的地に着いているのに対して、久万町では 4 割程度となっている。これより、久万町では娯楽として 8 割の人が久万町外に出かけていることになる。逆に松山市では 8 割の人が松山周辺を選んでいる。平均移動距離を見ると久万町では 40.9km、松山市では 6.9km となっており約 6 倍と大きな差が見られた。

4. 結論

このように久万町では松山市に比べ目的地までの交通に予想していたように多くの時間を取られているといえる。特に自分で選択できる買物や娯楽については大きな差がでている。しかし、通勤に関しては逆になっている。また、距離に関しては差が大きくなっているが、時間に関してはそれほど差がでない。この要因としては都市中心部などでは交通量が多いことや信号が多いために自動車を利用した場合の平均速度が山間部に比べて遅くなっているのではないかと考えられる。結論としては山間地域と都市部では平日ではあまり差はなく、時間の多くとれる休日において差が大変大きくなっている。

